清瀬市役所産はち みつが できるまで



地域活性化の取組として平成2年に始まり 民間委託して復活。市役所屋上発「きよはち」の 一時休止を経て、令和5年度に養蜂・採蜜を 歩みとその未来、支える仕組みやこれからを追います。

04

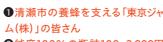






C h

i



②純度100%の瓶詰100g2,800円 (35g1,200円)と、きよはちサイダー 340ml350円

❸8月に行われた採蜜体験会は申 し込み開始初日で定員が満員に なる人気ぶり ※価格はすべて税込です

が

捉え、

た。

地域循環を育む挑 市役所屋上から始まった養蜂

きよばっち

活動報告や採蜜体験を通じて、見える 品などで親しまれてきました。 粧品、ジェラー も早くから進み、 となる自治体職員による養蜂であり、 やイベント出店、 「清瀬市役所産はちみつ『Kiyoha 巣箱から飛び立つミツバチが集めた蜜は への関心の喚起、そして地域産品づく が多く残る清瀬市の環境を資源として 市役所屋上を舞台に養蜂を始めまし 然と人がともに生きるまち」を掲げ 広がりました。 を同時に叶える挑戦でした。 平成26年(201 、されたことで、 都市部にありながら雑木林や農地 受粉による農作物の実り、 として商品化され、 トなどへと広がったことで、 ふるさと納税の返礼 市 焼き菓子やパン、 市民の理解と応援 4年)、清瀬市は「自 内事業者との連 学校給食 都内初 屋上の 自然 した。 た。 た え、  $\overline{\mathsf{K}}$ 

れるなか、清瀬市にも「きよはち」を使った 特別な一本が加わります。10月4日に発売 される「きよはちジン」は、北海道の馬追蒸 溜所とのコラボで開発された200本限定 品。スパイスは控えめに、はちみつのやさ しい甘みとユズの爽やかな香りを引き立 て、まるではちみつレモンのような軽やかさ に仕上げています。価格は350ml4,400 円(税込)。10月4日「クラフトな夜」(裏表 紙参照)でお披露目予定です。



守る意識と関わりの輪が広がっていきま る機会を重ねることで、 まで多くの市民がミツバチの仕事にふれ プログラムも実施し、子どもから大人 とも魅力のひとつ。採蜜見学など体験 地域の物語、として育っていきまし -yohach: 年によって風味が少しずつ異なるこ 季節ごとの花の個性が瓶の中に宿 清瀬の風景や人の営みと結びつい は単なる商品を超 身近な自然を

## 官民連携で持続可能な運営 休止期を越え再始動への道

門性を持つ事業者が日々の飼育・病害 事業者へ委託することにしました。専 事業を継続し地域資源として磨き続け 節要因への対応など、 官民が役割を分担し、専門性と安全性、 報、学習・交流の場づくりを推進する. るため、養蜂・採蜜業務を民間の養蜂 ありました。 、 ました。 寄せら た結果、 たり安全面への配慮、 を続けてほしい」という声が数多 活動を抑える判断を行った年も 採蜜を担い、 市職員が直接養蜂を行うに ある時期には採蜜を見送る 持続可能な運営方法を検討 市内外からは「Kiyoha 関係部局の協議を経て、 市は安全管理や広 多くの課題があ 人員体制や季

た蜜ろうを蜜刃で薄く削る。削りかすは溶 かしてロウソク等に 一新し、 した。定番の瓶詰に加え、 憶に残る取 き 委託後は、 商品で広 遠心機にかける 瓶の形、ラベル、

ロゴも

巣房が蜜で満ち全面 が封蝋されたら、巣 板を巣箱から静かに

取り出し、作業台へ

蜜ろうを落とす 巣板の両面に付い

丁寧に運ぶ。

再利用。



ぐ

遠心機のコックを開 けて採蜜。混入物を 細かな網で丁寧に濾 し、澄んだ蜂蜜を受 け取る。

は

住民参加や学校、 越えた「きよはち」の新しいスタイルです。 ための再設計―それが、 な仕組み、へと進化しました。 びつくことで、 続けながら、 所屋上という象徴的な場所での養蜂を 継続性を高める新しい体制です。 らぎにも対応できる運営に再設計。 り組みを、 気象条件の変化や生態の プロジェクトは、持続可能 事業者との協働と結 無理なく続ける 休止期を乗り 地域の記 市役

> 瀬 届

市出身のアーティスト

きました。

市外の注目も高まり、

h

が 新

宿 伊

勢丹の

60歳記念企画

よはちサイダー誕生物語 がる味の輪と絆

ダー」が誕生。「きよはち」のほのかな 市制施行55周年を機に「きよはちサイ スタイリッシュに生まれ変わりま 蜜がたまった巣板を 遠心機に2枚セット。 手で回し、遠心力で 蜜を飛ばし槽の底へ 令和7年夏、

> 方や、 は絶好の機会です 場(P2参照)。これらの動きは、 度の締めくくり。夏に訪れられなかった はミツバチの飼育状況を間近に見られ 生まれています。 販売や広報など各現場で新しい協働が さらに中森さんとのコラボ返礼品も る見学会を定期開催。 ミツバチは市内の花々を巡り、 からの来訪動機づくりにもつながり 秋の養蜂の様子を知りたい方に また、 10月14日は今年 市役所屋上で

の機会、新しい地域産品づくりへと結び 屋上の小さな巣箱から始まった循環は 未来へつなげていきます。 これからも 行政・市民・事業者の協働によってゆっ 輪は再び を通じて農の恵みを支えます。 りと、 「きよはち」の物語を、 地域で加工・販売され、 しかし確実に広がっています。 自然へ、 清瀬市は、自然と人をつな まちへと還っていく。 学びと交流 関わる人の はちみつ 受粉

# フェスティバル会場などから幅広い層に 中森明菜さ

香りと爽やかなのど越しで、

ひまわり

**INTERVIEW** 野崎 京

ジャ

Ä

(株)



清瀬市の環境は

登

ISETAN で「きよはち」をセレクト。 Special Collaboration with AKINA NAKAMORI 60th Birthday

ており、 できます 安心して「きよはち」をお届け が健全である裏付けでもあり 安全性も証明されています。そ 度や残留農薬の有無を検査 野崎さん はちみつにどう表れていますかっ れは清瀬市の農地や自然環境 、甘みや香りはもちろん 採れたはちみつは糖

「きよはち」の魅力は何ですか? 読者に伝えたい

野崎さん と広げていきたいです これからは、この「循環」を かさを伝える存在だと思います。 蜜がはちみつになって人の暮ら ることで果物が結実し、集めた しに届く。はちみつは地域の豊 ミツバチが花をめ